S-CLASS
取扱説明書

Mercedes-Benz

お客様へ

このたびはメルセデス・ベンツをお買い上げいただき、ありがとうございます。

この取扱説明書は、車の取り扱い方法をはじめ、機能を十分に発揮させるための情報や、危険な状況を回避するための情報、万一のときの処置などを記載しています。

車をお使いになる前に、本書を必ずお読みください。

- 取扱説明書は、いつでも読めるように必ず車内に保管してください。
- この取扱説明書には、日本仕様とは異なる記述やイラスト、操作方法などが含まれている場合があります。
- 装備や仕様の違いなどにより、一部の記述やイラストが、お買い上げいただいた車とは異なることがあります。
- また、スイッチなどの形状や装備、操作方法などは予告なく変更されることがあります。
- COMANDシステムやETCに関しては、別冊の「COMANDシステム取扱説明書」をお読みください。
- 車を次のオーナーにお譲りになる場合は、車と一緒にすべての取扱説明書と整備手帳をお渡しください。
- オプションや仕様により異なる装備には＊マークがついています。
- 関連する内容が他のページにもある場合は、該当ページを **(3-50)** のようなかたちで示しています。
- 操作手順などは、文頭に▶を記しています。
- ご不明な点は、お買い上げの販売店または指定サービス工場におたずねください。

ダイムラー・クライスラー日本株式会社

表記と記載内容について

警　告 ⚠

重大事故や命にかかわるけがを未然に防ぐために必ず守っていただきたいことです。

注　意！

けがや事故、車の損傷を未然に防ぐため、必ず守っていただきたいことです。

知　識

知っていると便利なことや、知っておいていただきたいことです。

環　境

環境保護のためのアドバイスや守っていただきたいことを記載しています。

環境保護について

ダイムラー・クライスラー社では、大気汚染の抑制、資源の有効利用をはじめとする環境保護対策に取り組んでいます。環境保護のため、お車をお使いになるときは以下の点にご協力ください。

- タイヤの空気圧が適正であることを確認してください。
- 停車したままの暖機運転は必要ありません。
- 急発進や急加速は避けてください。
- エンジン回転数がその車の許容限度の2/3(許容限度が7,000回転のときは約4,600回転)を超えないように運転してください。
- 不必要な荷物を載せたままにしないでください。
- スキーラックやルーフラックなどが必要でないときは、車から取り外してください。
- 長時間の停車時は、エンジンを停止してください。
- 指定サービス工場で適切な時期に点検整備を受けてください。

警　告 ⚠

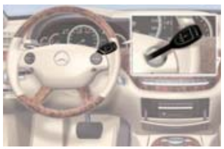
車両には警告ラベルが貼付されています。これらの警告ラベルには危険な状況を回避するための情報をはじめ、車を安全に使用するための情報が記されています。

警告ラベルは絶対にはがさないでください。

環　境

ダイムラー・クライスラー社は、資源を有効活用するため、リサイクル部品を積極的に導入しています。

オートマチックトランスミッションのセレクターレバーを操作するときの注意



左ハンドル車

セレクターレバーの位置

オートマチックトランスミッションのセレクターレバーは、センターコンソールではなく、ステアリングの右側にあります。

セレクターレバーの操作方法

方向指示やワイパーの操作をする際は、誤ってセレクターレバーの操作をしないように注意してください。事故を起こすおそれがあります。

また、センターコンソールにセレクターレバーがある車両と比べると、セレクターレバーの操作方法が大きく異なります。詳しくは **(5-5)** をご覧ください。

目次

1. 安全のために
走行する前に ……1-2
子供を乗せるとき ……1-4
慣らし運転 ……1-6
走行するとき ……1-7
走行中に異常を感じたら ……1-9
駐停車するとき ……1-10
雨降りや濃霧時の運転 ……1-11
オートマチック車の取り扱い ……1-12
こんなことにも注意 ……1-14

2. 安全装備
正しい運転姿勢 ……2-2
シートベルト ……2-3
PRE-SAFE（プレセーフ） ……2-9
SRSエアバッグ ……2-10
チャイルドセーフティシート ……2-16

3. インストルメントパネル
メーターパネル ……3-2
COMANDシステム ……3-10
マルチファンクションディスプレイ ……3-22

4. 運転する前に
スイッチ類一覧 ……4-2
キー ……4-8
フロントシート ……4-20
リアシート ……4-36
ドア ……4-44
トランク ……4-57
ボンネット ……4-65
燃料給油口 ……4-68
盗難防止警報システム ……4-70
パワーウインドウ ……4-75
スライディングルーフ ……4-79
ルームミラー ……4-86
ドアミラー ……4-88
ステアリング ……4-95

5. 運転するとき
エンジンスイッチ ……5-2
エンジンの始動と停止 ……5-3
オートマチックトランスミッション ……5-5
マニュアルギアシフト ……5-12
オートマチック車の運転 ……5-15
ランプ ……5-21
方向指示 ……5-28
非常点滅灯 ……5-29
ワイパー ……5-30
ヘッドランプウォッシャー ……5-33
パーキングブレーキ ……5-34
ブレーキ ……5-38
ホールド機能 ……5-39
ABS ……5-42
BAS ……5-44
ESP ……5-45
ヒルスタートアシスト ……5-49
AIRマティックサスペンション ……5-50
クルーズコントロール ……5-53
ディストロニック ……5-59
可変スピードリミッター ……5-72
ナイトビューアシスト ……5-77
パークトロニック ……5-81
パーキングアシストリアビューカメラ ……5-86

6. 快適・室内装備
エアコンディショナー ……6-2
ルームランプ ……6-30
グローブボックス ……6-39
小物入れ ……6-40
カップホルダー ……6-43
サンバイザー ……6-44
バニティミラー ……6-44
リアバニティミラー ……6-45
灰皿 ……6-45
ライター ……6-47
12V電源ソケット ……6-48
リアウインドウ・ブラインド ……6-49
アシストグリップ ……6-52
コートフック ……6-52
ルーフラック ……6-53

7. 万一のとき
事故・故障のとき ……7-2
非常信号用具 ……7-3
停止表示板 ……7-3
車載工具 ……7-4
輪止め ……7-5
救急セット ……7-5
パンクしたとき ……7-6
けん引 ……7-14
オーバーヒートしたとき ……7-17
バッテリーがあがったとき ……7-18
ヒューズの交換 ……7-21
電球の交換 ……7-24

8. 点検と整備
メンテナンス ……8-2
エンジンルーム ……8-6
冷却水 ……8-8
エンジンオイル ……8-10
ブレーキ液 ……8-13
ウォッシャー液 ……8-15
タイヤとホイール ……8-16
バッテリー ……8-23
寒冷時の取り扱い ……8-25
日常の手入れ ……8-30

9. サービスデータ
純正部品 / 純正アクセサリー ……9-2
ビークルプレート ……9-3
電球一覧 ……9-5
ヒューズ一覧 ……9-6
オイル・液類 ……9-11
タイヤとホイール ……9-14
積載荷物の制限重量 ……9-15

10. こんなときは
故障 / 警告メッセージ ……10-2
トラブルの原因と対応 ……10-25

11. さくいん
さくいん ……11-2

1. 安全のために

走行する前に ……1-2
子供を乗せるとき ……1-4
慣らし運転 ……1-6
走行するとき ……1-7
走行中に異常を感じたら ……1-9
駐停車するとき ……1-10
雨降りや濃霧時の運転 ……1-11
オートマチック車の取り扱い ……1-12
こんなことにも注意 ……1-14

走行する前に

点検と整備

日常点検や定期点検は、使用者自身の責任において実施することが法律で義務づけられています。これらの点検項目については、別冊の「整備手帳」をお読みください。

夏季の取り扱い

- 夏を迎える前にエアコンディショナーの冷媒に不足がないか、指定サービス工場で点検を受けてください。
- オーバーヒートの予防策として、いつもより頻繁に冷却水量を点検してください。

日ごろの状態と異なるとき

エンジンをかけたとき、いつもと異なる音やにおいを感じたり、駐車していた場所に水やオイルの跡が残っているときは、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

ドアを開くと

ドアを開くと、一部の装置が自動的に動き始め、作動音などが聞こえることがありますが、異常ではありません。

タイヤの点検

タイヤの空気圧や溝の深さが十分あり、タイヤに損傷や異常な摩耗がないことを点検してください。タイヤの空気圧が低かったり、損傷したタイヤで走行すると、タイヤが破裂したり、火災が発生するなど、事故を起こすおそれがあります。

シートベルトは必ず着用

走行を開始する前に、すべての乗員がシートベルトを着用してください。

運転席足元に注意

- 運転席の足元には、物を置かないでください。ペダルの下に物が入ると、ペダルを操作できなくなるおそれがあります。
- フロアマットは純正品のみを正しく使用してください。車に合ったものを使用しないと、ペダル操作ができなくなるおそれがあります。

車庫内では

車庫などの換気の悪い場所ではエンジンを停止してください。排気ガスに含まれる一酸化炭素を吸い込むと、一酸化炭素中毒を起こしたり、死亡するおそれがあります。

一酸化炭素は、無色無臭のため気がつかないうちに吸い込んでいるおそれがあります。

ウォーミングアップ（暖機運転）

エンジンが冷えているときでも、停車したままでの暖機運転は必要ありません。エンジンの始動後は、急加速を避けて車をウォーミングアップしてください。

燃料の給油

- 燃料は無鉛プレミアムガソリンを使用してください。有鉛ガソリンや粗悪なガソリン、指定以外の燃料（高濃度アルコール含有燃料など）を使用したり、添加剤などを混入すると、エンジンなどを損傷するおそれがあります。
- 目的地まで余裕をもって走れるように、十分な量を補給してください。
- 燃料給油口には、純正品以外のキャップを使用しないでください。
- セルフ式のガソリンスタンドなどで給油するときは必ず以下の点を守り、安全に十分注意して作業を行なってください。身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火したり、火傷をするおそれがあります。
  - ◇ エンジンを停止して、ドアやドアウインドウなどを閉じる
  - ◇ 燃料給油口を開くことからはじまる一連の給油作業は、必ずひとりで行なう
  - ◇ 給油作業をする人は、作業の前に金属部分に触れるなどして身体の静電気を除去する
  - ◇ 作業中は車内に戻らない（帯電するおそれがあります）
  - ◇ キャップの取り外し / 取り付け **(4-68)** は確実に行ない、火気を近づけないようにする
  - ◇ ガソリンを垂らさないように注意する（塗装面を傷めるおそれがあります）
  - ◇ 気化した燃料を吸い込まないように注意する
  - ◇ 給油作業をする人以外は燃料給油口に近づかない
  - ◇ ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守る

荷物を積むとき

- 荷物はできるだけトランクに積んでください。
- 車内に荷物を積むときは、動かないように確実に固定してください。急ブレーキ時などに荷物が放り出され、乗員がけがをするおそれがあります。
- 後席ヘッドレストの後方に荷物を置かないでください。急ブレーキ時などに荷物が放り出され、乗員がけがをするおそれがあります。
- 鋭い角のあるものは、角の部分に必ずカバーをしてください。
- 荷物をシートのバックレストよりも、高く積み上げないでください。

燃えるものは積まない

燃料を入れた容器や可燃性のスプレー缶などを積まないでください。万一のときに引火や爆発のおそれがあります。

子供を乗せるとき

子供にも必ずシートベルトを着用

- 子供であっても、シートベルトを正しく着用し、シートやヘッドレストが正しい位置になっていることを大人が確認してください。正しくシートベルトが着用できない小さな子供は、チャイルドセーフティシートを使用してください。
- 乳児や子供を抱いたり、ひざの上に乗せて走行しないでください。急ブレーキ時や事故のとき、大人と車の間に挟まれて重大なけがをするおそれがあります。

小さな子供にはチャイルドセーフティシート

6歳未満の子供にはチャイルドセーフティシート **(2-17)** を使用することが法律で義務づけられています。

子供は後席に

- 子供はできるだけ後席に乗せてください。助手席では、子供の動きが気になったり、子供が運転装置をさわるなど、運転の妨げになることがあります。
- チャイルドセーフティシートは、必ず後席の左右いずれかに装着してください。やむを得ず助手席に装着するときは、車の進行方向に向けてチャイルドセーフティシートを装着し、助手席シートを最後部に移動してください。
- 子供を助手席に座らせるときは、助手席シートをもっとも後ろおよび高い位置にしてヘッドレストの高さをもっとも高い位置にし、正しく座らせてください。エアバッグの作動時に大きな衝撃を受けるおそれがあります。

子供には操作させない

- ドアやドアウインドウは大人が開閉してください。子供が操作すると、身体を挟んだり、けがをするおそれがあります。
- 後席ドアのチャイルドプルーフロック **(4-53)** やドアウインドウのセーフティスイッチ **(4-54)** を活用してください。

ドアウインドウやスライディングルーフ＊から身体を出さない

子供がドアウインドウやスライディングルーフの開口部から身体を出さないように注意してください。けがをするおそれがあります。

車から離れるとき

子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転装置に触れてけがをしたり、事故の原因になることがあります。

また、炎天下では車内が高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

慣らし運転

新車の場合、エンジンなどの機械部分が馴染むまで「慣らし運転」することをおすすめします。

新車時に十分な慣らし運転を行なうことにより、将来にわたって安定した性能を維持することができます。

知　識

新車時の高速走行後など、エンジンルームからわずかに白煙が出たり、独特の臭いがすることがあります。これは防錆保護ワックスが加熱されて発生するもので、故障や異常ではありません。走行距離が増すと臭いはなくなります。

最初の1,500kmまでは以下の注意事項を守ってください。

- エンジン回転数が許容限度の2/3（許容限度が7,000回転のときは約4,600回転）を超えないように運転してください。
- エンジンに大きな負担のかかる運転は避けてください。
- いつも一定のエンジン回転数で走行するのではなく、負担のかからない範囲で回転数と速度を変えてください。
- キックダウンや過度のエンジンブレーキは避けてください。
- D3、D2、D1 のレンジは山道などを低速で走行するときだけ使用してください。

走行距離が1,500kmを超えたら、エンジン回転数を徐々に高回転まで上げてください。

知　識

- エンジンや駆動系部品の分解や交換をした後も、慣らし運転を行なってください。
- **キックダウン：**走行中にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、自動的に低速ギアに切り替わり、エンジンの回転数が上がって素早く加速します。これをキックダウンといいます。
- **エンジンブレーキ：**走行中、アクセルペダルを戻したときに発生するエンジン内部の抵抗をエンジンブレーキといいます。低速ギアのときほど効きが強くなります。

走行するとき

アクセルペダルはおだやかに操作

- 発進や加速するときは、タイヤを空転させないようにおだやかにアクセルペダルを操作してください。タイヤを空転させると、タイヤだけでなくトランスミッション、駆動系部品を損傷するおそれがあります。
- 車間距離を十分に確保し、不要な急発進や急加速、急ブレーキを避けてください。

横風が強いとき

横風が強く、車が横方向に流されそうなときは、ステアリングをしっかりと握り、いつもより速度を下げて進路を保ってください。

トンネルの通過

トンネルに進入するときは、ヘッドランプを点灯してください。内部照明が暗いトンネルでは、進入直後に視界が悪くなることがありますので、十分注意してください。

エンジンブレーキの活用

下り坂が続くときは、エンジンブレーキを活用してください。ブレーキペダルを長時間踏み続けると、ブレーキディスクが過熱してブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。

知　識

エンジンブレーキ：走行中、アクセルペダルを戻したときに発生するエンジン内部の抵抗をエンジンブレーキといいます。低速ギアのときほど効きが強くなります。

滑りやすい路面

滑りやすい路面では、シフトダウン操作による急激なエンジンブレーキを効かせないでください。

水たまりの通過後

水たまりの通過後や洗車直後は、ブレーキの効きが遅れたり、悪くなることがあります。このようなときは、後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

スタック（立ち往生）したとき

- ぬかるみなどでタイヤが空転したり脱輪した状態から脱出するときは、タイヤを高速で空転させないでください。脱出直後に車が急発進し、事故を起こすおそれがあります。

  また、タイヤを高速で空転させると異常な過熱が起こり、タイヤの破裂や火災などの事故が起きたり、トランスミッションが損傷するおそれがあります。
- スタックした状態から脱出するときは、タイヤ前後の土や雪などを取り除いたり、タイヤの下に板や石などをあてがうと効果的です。

道路冠水や車が水没したとき

- 豪雨などで道路が冠水し、マフラーに水が入ったときは決してエンジンを始動しないでください。そのままエンジンを始動すると、エンジンに重大な損傷を与えるおそれがあります。
- 車が水没した場合は、水が引いたあとでもエンジンを始動せずに、指定サービス工場に連絡してください。

走行中に異常を感じたら

警告灯が点灯したとき

ただちに安全な場所に停車してエンジンを停止し、本書に従い対処してください。それでも警告灯が消灯しないときは、指定サービス工場に連絡してください。警告灯が点灯したまま走行を続けると、事故を起こしたり、車に重大な損傷を与えるおそれがあります。

ボディ下部に強い衝撃を受けたとき

ただちに安全な場所に停車してボディの下部を点検し、ブレーキ液や燃料などが漏れていないか確認してください。漏れやボディ下部に損傷を見つけたときは、運転を中止して指定サービス工場に連絡してください。損傷を放置したまま走行を続けると、事故を起こすおそれがあります。

走行中にタイヤがパンクしたり、破裂したとき

あわてずにしっかりステアリングを支えながら、徐々に減速して安全な場所に停車してください。急ブレーキや急ハンドル操作をすると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

駐停車するとき

駐車するときの注意事項

- マフラーは非常に高温になります。周囲に枯れ草や紙くず、油など燃えやすいものがある場所には駐停車しないでください。
- 同乗者がドアを開くときは、周囲に危険がないことを運転者が確認してください。
- 見通しの悪い場所や暗い場所では駐車しないでください。
- 炎天下での駐車時には、車内各部の温度が非常に高くなります。ステアリングやシートなどに触れると、火傷をするおそれがあります。
- 炎天下に駐車するときは、ウインドウにカバーをしたり、ステアリングやシートなどにカバーやタオルをかけて、温度の上昇を抑えてください。
- 炎天下に駐車した後は、乗車する前に換気をするなどして、車内各部の温度を下げてください。

雪が降っているときは

車の周囲が雪で覆われているときは、雪を取り除いてからエンジンを始動してください。積雪によりマフラーがふさがれ、排気ガスが車内に侵入するおそれがあります。

急な坂道では

急な坂道で駐車するときは、シフトポジションを P にして、パーキングブレーキを確実に効かせてください。さらに輪止めをしてください。

仮眠するとき

やむを得ず車内で仮眠するときは、安全な場所に駐車して必ずエンジンを停止してください。無意識のうちにセレクターレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込むと、車が動き出し、事故を起こすおそれがあります。

またアクセルペダルを踏み続けると、エンジンやマフラーが異常過熱して火災の原因になるおそれがあります。

後退するとき

後方視界が十分に確保できないときは、車から降りて後方の安全を確認してください。